

各火山の 7 月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳めあかんだげ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

雌阿寒岳ではここ数年、地震増加、浅部熱活動の活発化を示す全磁力¹⁾の減少や 96-1 火口の噴煙量増加などがみられている。今後の火山活動の推移に留意が必要である。

十勝岳とからだけ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

6 日に実施した現地調査では、62-2 火口周辺で、引き続き熱活動が活発な状態となっていることを確認した。

十勝岳ではここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に留意が必要である。

樽前山たるまえざん [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いており、突発的な火山ガス等の噴出に留意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

大雪山たいせつざん [噴火予報（活火山であることに留意）]

倶多楽くつたろ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

有珠山うすざん [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

北海道駒ヶ岳ほっかいどうこまがたけ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

恵山えざん [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

【東北地方】

秋田駒ヶ岳あきたこまがたけ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

女岳めだけでは、2009 年から拡大した地熱域が引き続きみられるが、2014 年 10 月以降は大きな変化は認められていない。

12～13 日、25～26 日に実施した現地調査では、前回（2015 年 7 月 22～23 日）の観測と比較して、女岳の山頂北部、北斜面、北東斜面及び南東火口の地熱域の広がりや地中温度、噴気の状態に大きな変化は認められなかった。また、前回地熱域の拡大が認められた南東火口縁外側の一部では、引き続き地熱域のわずかな拡大が認められた。

地震活動は概ね低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられないが、地熱活動が続いているので今後の火山活動の推移に留意が必要である。

蔵王山ざおうざん [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

今期間は火山活動に特段の変化はなかった。2013 年以降火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、火山活動はやや高まった状態にあったが、以前の状況に戻りつつある。火山活動は、まだ静穏な状況にはなっていないことから、今後の火山活動の推移に留意が必要である。

吾妻山あづまやま [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

大穴火口及び周辺の噴気活動や地熱活動はやや活発な状態が続いている。

7 日及び 20 日に実施した現地調査では、大穴火口の噴気に変化はみられず、大穴火口周辺の地熱域に拡大等の変化は認められなかった。昨年（2015 年）10 月に新たに噴気を確認した大穴火口北西で、複数の弱い噴気を引き続き確認した。また、噴気が出ていない場所でも地熱の高い領域が確認された。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口周辺（火口から概ね 500m の範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰、風の影響を受ける小さな噴石²⁾及び火山ガスに留意が必要である。

磐梯山ばんていざん [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

12 日に、山頂付近を震源とする地震が日回数 10 回と一時的に増加したが、その他の火山活動

に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん

岩木山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

はっこうださん

八甲田山 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

とわだ

十和田 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

あきたやげやま

秋田焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

いわてさん

岩手山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

ちょうかいさん

鳥海山 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

くりこまやま

栗駒山 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

あだたらやま

安達太良山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

草津白根山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

湯釜火口の北から北東内壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分の火山活動の活発化を示す変化や、湯釜の水温が平年よりも高い状態が観測され、継続している。

小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま

浅間山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

山頂火口からは、白色の噴煙が火口縁上概ね 400m 以下で経過している。

山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映³⁾が 11 日及び 30 日に観測された。

6 日に実施した現地調査では、火山ガス (二酸化硫黄) の放出量⁵⁾は 1 日あたり 300 トンで、

先月 (10 日 : 400 トン、24 日 : 700 トン) よりやや減少している。

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態となっており、火山活動はやや活発な状態で経過している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾に注意が必要である。

にいがたやげやま

新潟焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

2015 年夏頃から山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12 月下旬からは噴煙量も多くなっている。GNSS⁴⁾連続観測では、2016 年 1 月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられている。

12 日に実施した現地調査では、山頂部の噴気孔付近から泥水が流れ出したとみられる跡が東斜面に認められた。泥水が流下した水平距離は約 400m、標高差は約 300m で、泥水が流れ出した時期は不明である。

妙高火山研究所によると、19 日に東斜面で噴気孔から流れ出たと考えられる泥水が確認され、21 日には山頂から南南東およそ 1.5km 付近で微量の火山灰が見つかった。これらのことから、7 月中にごく小規模な噴火が発生していたと考えられる。

5 月 1 日に振幅の小さな火山性地震が増加した後、火山性地震は次第に減少しているが、2015 年以降の地震回数は、2014 年以前と比べてやや多い状態が続いている。

今後も、想定火口内 (山頂から半径 1 km 以内) に影響を及ぼすような噴火が発生するおそれがあるため、火山活動の推移に注意が必要である。

みだかはら

弥陀ヶ原 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過している。

以前から熱活動が活発である立山地獄谷では、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されているので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスに注意が必要である。

おんたけさん

御嶽山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上概ね 500m 以下の高さで経過している。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていない。今期間、低周波地震を 3 回（6 月：2 回）観測している。火山性微動は観測されなかった。

2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いているが、火口列からの噴煙活動や、地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾に注意が必要である。

富士山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

箱根山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

大涌谷に設置している火口カメラによる観測では、大涌谷の火口や噴気孔及び温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しているのを確認している。大涌谷周辺での噴気の高さは概ね 100m 以下で経過している。

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過している。また、地殻変動観測では、特段の変化は見られていない。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、噴気活動が活発なところがある。大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意が必要である。

伊豆大島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山性地震は少ない状態で経過し、震源は、三原山周辺の浅いところと西方沖に分布している。

24 日頃から、伊豆大島近海（伊豆大島の北西約 10km、深さ約 10km）で地震が一時的に増加し、伊豆大島島内でも 24 日に震度 1 以上を複数回観測した。この地震の前後で、火山活動には特段の変化はみられない。低周波地震や火山性微動は観測されていない。

29 日に実施した現地調査では、三原山山頂火口内にある中央火孔の最高温度は約 38℃で、

1999 年以降ほぼ同じレベルで経過している。また、中央火孔内の地表面温度分布は、前回（6 月 27 日）の観測と比べて特段の変化は認められない。その他、三原山山頂周辺の噴気温度にも特段の変化は認められない。

地殻変動観測では、短期的な膨張や収縮を繰り返しながら、長期的には地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

三宅島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

4 日に実施した現地調査では、火山ガスの放出量は 1 日あたり約 60 トン（前回 6 月 27 日：約 60 トン）で、少ない状態であった。

1 日及び 11 日に実施した現地調査では、主火口内及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、前回の観測（6 月 3 日）と比べて、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過している。

主火口における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、山頂火口内及び主火口から 500m 以内では火山灰噴出に警戒が必要である。

また、火山ガスの放出が継続していることから、風下にあたる地域では火山ガスに注意が必要である。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報〕

2013 年 11 月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていない。12 月以降は地表面温度の低下した状態が続いている。

19 日に海上保安庁が実施した調査では、第 7 火口及びその周辺に噴気及び火山ガスの放出は確認されなかった。前回（6 月 7 日）と比較して噴気活動は低下していると考えられる。火砕丘南側斜面上部の割れ目及び地形変化は前回と比較して顕著な変化は認められなかった。

熱計測画像によると、第 7 火口の火口縁及び火砕丘周辺の溶岩原に地表温度の高い領域が点在していたが、前回と比較して顕著な温度分布の変化や温度上昇等は認められなかった。

西之島では、火山活動に明らかな低下が認められ、噴火の可能性はかなり低くなっているものの、火山ガスや噴気が時々観測されており、

小規模な噴火が発生する可能性は否定できない。

火口から概ね 1.5km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。また、火口から半径 0.9 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがあるので、噴火に警戒が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや多い状態で経過している。GNSS⁴⁾ 連続観測によると、地殻変動は隆起及び停滞を繰り返している。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

にっこうしらねさん
日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

やけだけ
焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

のりくらだけ
乗鞍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

はくさん
白山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

いずとうぶかさぐん
伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

にいしま
新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

こうづしま
神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

はちじょうしま
八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

あおがしま
青ヶ島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

【九州地方及び南西諸島】

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

25～27 日に実施した現地調査では、噴気の状態に特段の変化は認められなかった。赤外熱映像装置⁶⁾による観測では、2015 年 11 月 30 日及び 2016 年 2 月 22 日と比較して、噴気地帯の一部の熱異常域が縮小していた。

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS⁴⁾ 連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、5 月 1 日に発生したごく小規模な噴火後、噴火は観測されていない。

4 日、5 日、15 日に実施した現地調査では、中岳第一火口内に灰色から灰白色の湯だまりを確認した。27 日には湯だまり量が中岳第一火口底の 7 割で、湯だまりが灰緑色に変化しているのを確認した。また前月に引き続き、ごく小規模な土砂噴出を確認した。火口底南側及び南西側で観測されていた高温の噴気孔は水没していた。5 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁵⁾は、1 日あたり 1,200 トン（6 月：1,900 トン）と多い状態であった。

火山性微動の振幅は、6 月 24 日から 7 月 3 日及び 11 日以降やや大きな状態で経過した。火山性地震は少ない状態で経過し、孤立型微動は 11 日まで多い状態で経過した。

GNSS⁴⁾ 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む古坊中一長陽（国）の基線の 2015 年 8 月頃からのわずかな伸びの傾向は、2015 年 11 月頃から停滞している。

中岳第一火口では、火山性微動の振幅がやや大きく、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態であり、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰、風の影響を受ける小さな噴石²⁾及び火山ガスに注意が必要である。

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動は静穏に経過しているが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発

となっているので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

まじりしまやま しんもろだけ **霧島山（新燃岳）[火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]**

新燃岳付近を震源とする火山性地震が時々発生した。

20 日及び 27 日に新湯温泉付近から現地調査を実施した。2008 年 8 月の噴火で形成された西側斜面の割れ目付近では、引き続き弱い噴気が認められた。27 日には、割れ目の下方でも弱い噴気が認められた。赤外熱映像装置⁶⁾による観測では、噴気が上がっていた周辺で、弱い熱異常域となっていることを確認した。

傾斜計⁷⁾では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められない。

GNSS⁴⁾連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞している。また、新燃岳周辺の一部の基線で、2015 年 5 月頃からわずかに伸びの傾向が認められていたが、2015 年 10 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾（火山れき⁸⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

まじりしまやま **霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）[噴火予報（活火山であることに留意）]**

遠望観測では硫黄山で時々噴気が観測されており、最高で火口縁上 60m まで上がった。

20 日及び 27 日に実施した現地調査では、硫黄山火口内及び火口周辺で引き続き噴気を観測した。赤外熱映像装置⁶⁾による観測では、熱異常域は前回（5 月 23 日）に比べわずかに広がっていた。硫黄山の火口周辺の熱異常域は引き続き拡大傾向にあるが、温度や噴気の量に大きな変化は認められない。

火山性地震は時々発生し、月回数は 43 回と前月（6 月：38 回）と同程度であった。震源は、主に硫黄山付近の海拔下 0～1 km に分布した。火山性微動は 2 月 11 日以降、観測されていない。

傾斜計⁷⁾では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められない。

GNSS⁴⁾連続観測によると、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線では、2015 年 5 月頃からわずかに伸びの傾向が認められていたが、2015

年 10 月頃から停滞している。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、熱異常域の拡大が続いており、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

火口周辺では火山ガスに注意が必要である。活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、注意が必要である。地元自治体を実施している立ち入り規制等に注意が必要である。

さくらじま **桜島[火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]**

昭和火口では、噴火回数は 2 回（6 月：4 回）で、このうち爆発的噴火は 2 回（6 月：1 回）であった。26 日 00 時 02 分の爆発的噴火では、噴煙は最高で火口縁上 5,000m まで上がった。26 日に実施した現地調査及び聞き取り調査では、桜島島内の西側から南西側でやや多量の降灰（1 平方メートル当たりの最大で 211 g）が観測されたほか、鹿児島市から日置市にかけての広い範囲で降灰を確認した。小さな噴石²⁾（火山れき⁸⁾）は確認されなかった。噴煙が 5,000 m に達したのは 2013 年 8 月 18 日以来だが、2013 年の噴火では、島内の 1 平方メートルあたりの降灰量が最大で約 4 kg であったことから、今回の噴火による噴出物の量は 2013 年の噴火の 10 分の 1 未満であったと考えられる。

南岳山頂火口では、噴火は観測されていない。火山性地震の月回数は 62 回で、前月（6 月：126 回）と同様に少ない状態であった。

火山性微動の継続時間は月合計 33 分で、前月（6 月：1 時間 45 分）と同様に少ない状態であった。

5 日、15 日、29 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁵⁾は 1 日あたり 30～60 トン（6 月：観測なし、5 月：300～500 トン）と少ない状態であった。

傾斜計⁷⁾では山体の膨張を示す変化は認められない。一方、桜島島内の一部の伸縮計⁹⁾では、4 月頃からわずかな伸張がみられており、爆発的噴火後にわずかな収縮が観測されている。

GNSS⁴⁾連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向が引き続きみられる。島内では、2015 年 8 月の急激な山体膨張の変動以降、山体の収縮傾向がみられていたが、2016 年 1 月頃から停滞している。

桜島では噴火活動が継続しており、地殻変動観測では始良カルデラの膨張が続いていることから、火山活動のさらなる活発化の可能性もあり、火山活動の推移に注意が必要である。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大き

な噴石²⁾及び火砕流に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾（火山れき⁸⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島^{さつまいおうじま} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

4日及び5日に実施した現地調査では、前回（2015年4月26日）と比較して噴煙の状況に特段の変化はなかった。また、赤外熱映像装置⁶⁾による観測でも、硫黄岳北斜面及び西側斜面の熱異常域に火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

火山活動は静穏に経過しているが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いているため、火山灰等が噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

口永良部島^{くちのえらぶじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

口永良部島では、2015年6月19日のごく小規模な噴火後、噴火は観測されていない。

遠望カメラによる観測では、噴煙が最高で火口縁上500mまで上がった。

21日～25日に実施した現地調査では、これまでの観測と同様に新岳火口および新岳火口西側割れ目付近から白色の噴煙が上がっており、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られなかった。また、赤外熱映像装置⁶⁾による観測では、2015年3月頃から5月29日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の熱異常域の温度は、引き続き低下した状態で経過している。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が実施した火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁵⁾は1日あたり200～300トンとやや少ない状況であった（6月：80～200トン）。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は2015年7月以降、観測されていない。

GNSS⁴⁾連続観測では、火口を挟む山麓の基線長は2016年1月頃から縮みの傾向が認められていたが、7月4日以降は観測点が障害となったため不明である。その他の山麓の基線長では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性はさらに低くなっているが、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2014年8月の噴火前よ

りもやや多い状態で経過していることから、引き続き噴火の可能性がある。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾及び火砕流に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒が必要である。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

諏訪之瀬島^{すわのせしま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口^{おたけ}では、噴火が時々発生した。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるため、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

鶴見岳・伽藍岳^{つるみだけ がらんだけ} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

霧島山（御鉢）^{きりしまやま おぼち} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- 1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定される。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 3) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象。
- 4) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 5) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加する。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用している。
- 6) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 7) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 8) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着してい

ると考えられることから、付加表現している。
9) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜

まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化
が観測されることがある。